

曾於文藝

うたごよみ

俳句

末吉俳句会

生垣に散り初めてゐる返り花

西村 セツ

歌碑までの秋草の怪たどりゆく

瀬戸内 紀子

鷹渡る今霊峰を後にして

本浦 玲子

大陽俳句会

揺る枝の影射す窓や秋隣

岩重 みどり

坂の上の雲へと続く黍畑

福村 よう子

新涼のあふるる星を数へけり

逆瀬川 節子

短歌

末吉短歌会

青田上菩薩を背にすアキアカネ
孟蘭盆告げむか顔のすぐそば

大森 巳喜生

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

夫なりの草とりのありバツサリと
切られ抜かれし宿根草よ

平田 美穂子

奔流の白に弾かれされぎれに
少年らの声今を刻めり

泊 康

大陽短歌会

穴ぐまか地をはう虫かこの吾か
落ち栗めがけ朝を争う

西山 美代子

声をあげて泣くこともなくなりし身を
寂しみて飼う虹色の鰻

広川 ミドリ

残る年を数えつつ服の始末する
流行遅れの花柄のシャツ

川辺 敦子

財部短歌会

「加齢です」平然として医師の言ふ
ハミングする耳持てる吾に

脇丸 洋子

空に舞う夢持つまごは輝けり
願いは一つ事故なき飛行を

永岡 冴子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

コンバイン 収穫つの田を
器用走つ

胡摩ヶ野 べぶまつ

収穫あちな 台風が逃つ
爺もにこつ

古川 一幹

収穫おとし 家族し揃つ
速よ終了

浜田 一好

収穫あつの 娘は小皿を
太茶碗

鈴木 一泉

大陽薩摩狂句会

大事な幼児を バス忘れ
け死なせつ

津留 群志

高け査定い 爺よつか壺が
大事じされつ

小倉 りんりん

国中で 大事じ育てた姫
嫁つ騒動

境 すやすや

結婚な 何よか金が
大事な物

西山 美代子